

教育白書に寄せられた教職員の声

以下は、教職員アンケートの、**項目6. 格差社会と教育の実情について、何かありましたらお書きください。**に寄せられた声です。表記等は、ほぼそのまま記載してありますが、一部プライバシーに関わる部分や文脈上明らかに間違っていると考えられる箇所は訂正しています。

①政府・社会制度の批判あるいは要望等

- ・今の政府の経済政策・雇用対策の影響が大きいと思う。
- ・義務教育のあり方について！学校に予算を！
- ・義務教育であるから国として基本的教育環境は平等に支援すべきだ！
- ・学習権は今後も平等に保障していくべきだと思います。そのための障害は取り除けるものは取り除いていく必要があると思います。
- ・教育に関係のある最低限の金銭的なものは、必要に応じて保障してもらえないと生徒には罪はないのに肩身の狭い思いをしている生徒がいて切なかった。
- ・種々の要因が複雑にからんでいるので、何をどうすればという方策はありませんが、将来の日本を背負う子どもたち1人1人の可能性を最大限伸ばできるように大人が努力して行かねばならないと思います。
- ・学校で保護者負担しなくていいようにもっと行政が学校予算をしっかり確保すべきという正しい信念を持って行政の仕事をして欲しい。国の方針にまかれすぎている。
- ・「国民が等しく義務教育を受ける権利」を侵害することのない政策を進めて欲しい。
- ・弱者である子どもが安心して学校生活を送る事のできる社会であってほしい。
- ・義務教育に関しては、格差のない社会の実現を！
- ・現在の状況だと教育の格差は広がるばかりである。もう少し教育関係への予算を確保すべきである。
- ・教育を受ける権利が保障されているという点から考えると低所得家庭に対しては行政がある程度援助するべきではないだろうか。
- ・教育予算をもっと増額すべきだと思う。
- ・教育にかかるお金については、やはり国・県を中心に補助できる体制が必要だと思う。
- ・未払い＝①支払う能力があるのに関わらず払わない、②支払う能力がない。ということだと思う。
- ・教育をもっと大切に考え安心して子育てが出来るような世の中になることが最もだと思います。
- ・福祉・教育予算の増大を要求します。(消費税増税の流れの中で)
- ・格差社会と教育の関係というよりも教育予算そのものが減少させられていることの方が問題である。極端な予算の削減はどうなっているのだろうか。
- ・公教育については格差(経済)の影響を受けないような社会にして欲しい。
- ・教育政策全般が悪い。(格差容認の雰囲気を感じる)
- ・学校でつけるべき学力を他に頼っていると思う。学習内容について文部小の方針を考え直すべきである。
- ・教科書無償化制は今後も続けて行くべきだと思う。
- ・自分の子だけは特別…という意識が根強く親の責任で何とかするのが当たり前の考え方が多いと思

う。

・子どもの生活・教育全般保護者の責任である。その保護者が、働きやすい社会を作っていくよう政府に働きかけていく。

・教育費がかからないように政府が、もっと補助すべきまた特に困っているところにはもっと補助すべき。また特に困っているところにはもっと手厚く補助を。

・保護者で就学援助を受ける家庭が増えてきている。経済的に打撃を受けている保護者にどう支援して行くのか行政へ訴える事と親と学校が連携して行くそのつながり方が重要だ。

・子供の人数が少なくなったので、これよりも先に支援策を充実してほしい。

・教育に金がかかりすぎるとい点から、経済力の差によって、さらに格差社会が深まると思う。公教育の充実をすすめるべし！

・親の就労意欲につながるような社会にして欲しい。

・どんな家庭に育っても、なりたいものになれる世の中だったらいいと思う。

・憲法違反だ！「等しく能力に応じて…」のはずが、「親の経済力に応じて」になっている。

・母子家庭・父子家庭への国からの補助がまだまだと感じています。

・働きたいのに、働けない人たちへの早急な手助けをどんどん行っていってもらいたいです。

・どの子供も平等に教育を受けられる社会であって欲しい。

・奨学金制度の検討・充実を図った方がよい。

・子どもたちが、誰でも教育を受けられる（進学が夢がもてる）社会を創る必要。

・教育費は、国の予算を削減するべきでない。

・国会議員の給料が減れば国民の生活ももっと楽になれるのでは？

・もう少し国として教育にお金をかけるべきだと思います。

・格差をなくす行政施策が必要。まずは高校の授業料減額。小・中学校の保護者負担軽減に取り組みたい。

・義務教育までは、学校教材や備品、教育環境を整えるためにも無償とすべき対象を広げる事が格差社会をつくらぬ前提だと思います。

・小泉政権の悪政により、子どもたちの生活や学力保障が破壊されている。この国の危機を日々に強く感じる。

・地域によっては学校給食が生徒にとって唯一の食事という所もあるので、さらに社会保障制度を見直して本当に必要な所にお金を入れて欲しいと思います。

・経済力が、教育の機会均等を奪う社会は問題である。

・地方により教育をおける内容に極端に差が出てくるのは、ある意味差別になると思う。

・子どもには何も責任もないことが、おこりうるので、子どもの社会も格差に影響されることのないようにしてほしい。

・働けるのに働かない。または生活保護を受けるのに働かない親がいる。子どもは親をよくみている。世の中がおかしくなっているのは、そういう制度も見直さないといけないのでは。

・こどもと親の努力には限界がある。高校に行きたくても「家計を支える為」と定時制を選び、親子で涙する場面も見てきました。（父親が病気で子ども 8 人母親が一人家計を支えていた家庭です。）「お金がなくて…」といいながらもいくつもの習い事・塾に通わせている現状もあります。社会で教育を支え

て行く必要は大きいと思います。

- ・公教育の削減をしないで、無駄な支出などをなくして欲しい。
- ・経済の格差が学力の格差、行く高校や大学の格差となる。低所得や厳しい労働条件で働かざるをえない状況の再生産となって固定化していくことは、人々の幸福につながらないと思う。「教育の機会均等」を維持していく施策が欲しい。
- ・新経済主義、単純、すっきり思考の小泉政治の弊害。人間社会は、単純に割り切れないのに物事を多様に考える力が今の政治にはない!二世三世の裕福な国会議員が多いから無理もないか。田中角栄みたいな貧乏から立ち上がった政治家は絶対必要!!
- ・奨学金は、ぜひ続けて欲しい。
- ・格差によって教育を受ける機会に差が大きくなると思う。もっと平等に受けられるよう補助が必要だと思う。
- ・日本の教育の良さは、「平等」にその機会が与えられているところにあったと思うが、それが、なし崩し的にどんどん差が広がっている事をとっても残念に思っている。資源のない国だからこそもっと「人」を育てる事に金をかける政策であって欲しい。
- ・教育は、平等に受ける権利があると思うので、学費にお金（大金）がかからないようにして欲しい。
- ・「上記の米を万引きした小学生」このような事は社会全体でしっかりと考え、何とかして欲しい。
- ・ぜひ格差のない社会にして欲しい。本人の意志を大事にした教育環境を整えてほしい。
- ・どの地方でも同じだろうが予算も減らすとなるとまず教育費である。この行政の体質が変わらない限り実情は悪くなるばかりである。国の将来を託す子どもたちの教育の為に最優先でお金を使うべきだと思う。
- ・日本の根本的な問題。
- ・子どもたちにはどの子も等しく教育を受ける権利があるわけで、それが、親の経済力の格差・地域格差などにより保障されない実態が出てきている事をしっかり把握して行政側や政治家たちも対策を講じてほしい。
- ・給食費等も全て負担にするなどして、子どもを守ってあげられたらもっとのびのび学習に集中できるのではないかと思います。
- ・格差社会が大きな問題だが、それが教育の機会に影響を及ぼさないような仕組みを作ってもらいたい。
- ・小泉改革が格差社会をつくった結果だと思う。
- ・国は家庭の教育力の格差が生まれにくい手立てを取るべきである。このままでは少子化はますます進むのではないだろうか。フィンランドの教育の話の話を聴き日本も学ぶべきだと思う。
- ・政府がもっと本腰入れて支援策など構じるべきなのにあらゆる面（医療、保険など）民間に丸投げしつつある現状が許せない。
- ・小泉・安倍は公教育を破壊し金持ち為だけの社会や教育を行おうとしている。教育基本法・憲法改悪もさらにリンクしていると思う。全ての子どもたちに平等な教育を行うべきである。
- ・義務教育の段階で私学にやらねばという風潮は国の教育に対する姿勢に大きな誤りがあることを示す何者でもない。
- ・今の政治は格差社会をつくっている。教育費にもっと国の財源を充てるべきである。
- ・保護者の経済力が子どもの教育に影響を与えるのは、間違いないと思う。中学校まではそれほどでも

ないが、高校・大学となるとかなりの差（経済力による）が出てくるのは必至であると思う。昔は、勉強するものは大学へ行けたが、今は経済的に苦しい家庭の子どもは、大学へ行けない現状がある。本当にこれが日本の教育なのか、いやこれが日本の教育なんだろうと情けなくなるとともに腹立だしくもなる。小泉の格差容認の政治の結果だろう。

- ・政治をやっている人達自体が経済的に恵まれた中で恵まれた教育を受けてきている人達だから一般庶民やギリギリの生活をしている中での子どもの教育（だけではないが）を推測する想像力がない。わかってないと思う。または、努力が足りない等と本人のせいにして責任放棄している。

- ・「地方分権」の大義名分の名のもとに地方の教育は、ますます厳しい状況に追いやられている。

- ・小泉政治の総決算が格差社会という貧富の差を生み出し、収入の減った家庭では子どもが希望しても高等教育を受けられない状況になってしまった。そういう意味では、小泉政権誕生時に期待した国民は、裏切られたという感を否めない。

- ・義務教育の国庫負担金をふやす。

- ・子どもは未来の宝だと思います。何でもかんでも予算を削り、格差を広げるべきではないと思います。

- ・実態把握をする為の機関の連携が難しいと最近感じています。

- ・生活が安定してこそ差別のない社会が築けるので、ぜひ格差のない社会について政治の場で論議して欲しい。

- ・金銭的な援助体制の確立を急がなければならない。

- ・消費税のあり方を見直すことも…。

- ・格差が広がるにつれ、教育への影響が大きくなっている。教育の機会均等等を保障するとりくみを社会全体がおこなっていかねばならないと思う。

- ・公的補助制度を充実すべき。

- ・ワーキングプアの社会現象に対し政府は策をこらざるべき。経済格差による教育を受ける機会の違いから学力格差が生まれ、それが子どもの進路に影響し、また経済格差の連鎖が続いてしまうのは由々しき事だ。義教法を守るべきだ。

- ・“保育料”とは違いますが所得に応じて支払う金額が決められ、仕方なく不足するところは、国の補助があればよいと思います。

- ・子どもの生まれた地域、家庭によって受けられる教育が決まる事で社会全体に格差が固定化する恐れがある。公教育の役割が大きくなっているにもかかわらず、教育予算の削減が進んでいる事に強い憤りを感じる。

- ・「教育は国家百年の計」といわれているので。まずは、公教育を子供たちが安心して受け、親が安心して働けるような社会体制づくり、福祉環境づくり、親への啓発（親教育も含め）をしていかなければならないと思う。将来的にこのような状況を少しでも減らして生きたい。

- ・偽政者には、教育基本法の本質論を論ずる前に「公教育を保障しろ」と言いたい。

- ・教育の条件整備をせずに教育内容に介入し国家が統制して行こうとする動きが見られる。ますます格差が広がり有無を言わせぬ教育が蔓延して行くのではないだろうか。とても不安である。

- ・格差社会は仕方がないが教育に影響を及ぼさない手立てを考えて欲しい。

- ・特に与論は全てにおいて物価が高いので、せめて税制面による優遇措置が欲しい。

- ・子どもと一緒に居たいが、朝から夜遅くまで働かざるをおえない家庭が前任校では多かった。こうい

う部分こそ行政が考える事になるのではないのでしょうか。

・義務教育だからこそ、教材費もある程度行政が持ってほしいと思う。(財政的には難しいでしょうが)

②保護者の考え方に問題があるなど

- ・経済的に本当に困っている家庭がある一方で、そうでもないのに滞納したり制度に頼ろうとする家庭もあるように感じる。それぞれの対応が辛いです。
- ・少し気になっていることがあるのですが、就学援助を受けている家庭で学習塾に通っている子供が多くいるのはいかなものなのでしょうか？その一方で校納金が滞っている実態にとても疑問を感じます。親の考え方が甘いと思います。子どもの人間性というか反骨精神も養われていか
- ・援助を受けているにも関わらず、いい車に乗っている方がいらっしゃるなど疑問に思うことがある。
- ・本当に困っている人を救う為にも大人の意識改革が必要だと思う。
- ・本当に苦しい経済状況の家庭もあるが、親のモラルや社会性のなさからの未払いもすくなくない。両方を同じ扱いで考えたり処理するのは、大変危険かと思う。
- ・②に関しては何らかの支援の必要があると思うが、③の子たちまで保障して行く必要はない。単純に「義務制の間は無償」というのが一番良いと思う。
- ・格差社会が広がっていく不安感はあるけども、教育にお金をかけない保護者が増えている。「子供より自分が大切だ」という考えが広がっている。
- ・格差と教育に関係はあるだろうが、まずは保護者の意識(金銭感覚)だと思う。親の姿勢が子供の学習態度や生活態度に表れているようなこともある。また、経済力が充分でなくても、しっかりと学習に励んでいる生徒もいる。
- ・生活能力・子育て能力のない親たちが増えている。
- ・格差社会と教育の実情については、経済力の格差もあると思いますが、親の意識が大きいと思います。
- ・保護者の親としての自覚を！わが子を第1に考えて欲しい。
- ・金銭教育の必要性も感じる。働いても、働いても金銭的に余裕のできない家庭がある。どの地域にも計画的に金銭を運営できない家庭があり、借金が、膨大に膨れ上がりやり直しが聞かない状態の家庭もある。
- ・保護者の経済力もあると思うが、価値観・意識の違いの方が影響は大きいと思う。
- ・子育て放棄気味の家庭がある(子だくさんで10人くらい)。親の姿勢に問題がある、子供は親を選べない…。給食費の未納もある。何とか無料(自治体または国持ちにできないか?)
- ・本当に払う事が難しい家庭と払えるのに払わない家庭がありました。親の「子どもの教育に対する気持ち」が低下しているのか？後者が増えている気がします。
- ・特に島は競争相手がいなかったり教材の入手・塾などへの参加など難しいことが多くあるのでは。

③学校・教職員の考え方に問題があるなど

- ・私達は自分たちの負担を減らす為にドリルや図工教材などを導入しているが、本当はよく検討しないといけないと思う。
- ・教職員自身の社会状況への認識が弱い。
- ・教職員の中には、世の中の格差社会について実感していない人が多く、私たちも職場の中で語って行

く必要がある。

・子どもの家庭の実情を知らずに（分からずに）学力を上げるために副教材をとっている。その活用方法は宿題で終わらせている現状がある。必要最低限で考えていかなければならない。

④格差は広がっている・広がる傾向がある

・中流階級と言われた家庭が現在本当に厳しい。経済改革して本当に住みやすくなったか？教育費の削減は国の未来の成長の削減である。

・塾に通える家庭とそうでない家庭との差は明らかに生じているのが現状だと思います。

・ますますひろがると思う。

・家庭環境が学習意欲などに大きく関係していると思うので、やはり格差はでてきていると感じる。

・経済力や学力だけでなく様々な能力に格差が広がっていると思う。

・今後も格差が広がっていくのかなーという不安はあります。

・経済的・社会的格差が学歴・就業への格差を生み出している。

・学校にやる余裕がないという声が聞かれるが、世の中は高卒でなければ資格も取れないシステムになりつつある。また、その反動かセレブとかなんとかでお金が全てというような風になりつつある面を感じます。

・これから更に格差は広がる。食い止めるのは難しいと思う。

・母子家庭の割合が増えている。労働時間賃金に直接影響する。1回のPTAに出席するだけで000円のマイナスという話をよく聞く。子どもへの声かけや見届けが少ない分生活面や学力面への影響は非常に大きく、格差は存在する。

・塾等に行ける余裕のある家庭の子どもは学校で定着できなかつたら塾等に行って学力をつけることが出来るが経済的な余裕のない家庭の子どもはそのまま。ということで学力差も開いてきている。パソコン使用も同様。

・経済的にゆとりのある家庭は習い事などに通わせ、私立校に通わせるなどして今後さらに格差は広がっていくことが予想される。

・家庭の経済力によって子どもに与えられる教育環境は明らかに異なると思う。学習の方法を工夫できる子は自分で学べるが、その力がない子は取り残されていく場合が多いと思う。

・経済的な家庭の差が、子供たちの教育の差となっている。これは大変問題である。

・教職全般（教育行政も含めて）あらゆる面で格差を感じる。

・お稽ごと・通塾・教材購入などで歴然と差ができ、学力差の固定化につながる。

・現在の教育システム（受験体制、大学入試など）では、有名と言われている私立大・国立大・医歯学系に進学する子どもはほとんどが裕福な家庭で育った子ども、学校外でもそれなりの教育を受ける事のできた子供である。能力があってもそれを生かせない状況の子どもはたくさんいると思う。

・たとえば金銭的余裕のある子供は、学校で分からないことを塾で補う。ということも可能であるわけで、格差が子供たちに与える影響は大きいと思う。金銭的な補償をすることは当然だが子どもたちに十分な学習を保障できるよう教師も普段の授業を充実させる必要があると思う。

・裕福な家庭では、高学歴、そうでないところはそれなりになっている。この現状は、これからも繰り返されるのではないだろうか。

- ・高校・大学への進学の際など、経済力のある家庭の方が教育にお金をかけて有利な気がする。
- ・学習塾・スイミング・英会話・ピアノ等経済的に余裕のある家庭は、子どもの教育にお金を使えるが、そうでない家庭は学校教育の中で高めるしかない。がやはり力の差が出てしまうのは仕方がないかもしれない。(学校教育の中では、無理が生じる)

子どもが少なくなっているのに、子どもにたっぷりお金をかけられる親とそうでない親との差が出ていると思う。

- ・習い事や塾にいけるかどうかで基礎的な部分の定着に明らかに差が出てきている。
- ・都会では親の給料で国立・私立・公立に進学先が分かれてしまう。問題ありすぎだが、地方と都会で地方交付税が人口比になるとこちらでも格差が出てきて問題だ。
- ・今後ますます格差が広がっていくと思う。
- ・格差が広がっている。フリーターを非難する声大きいけどフリーターにならざるを得ない現状もある。
- ・経済格差と教育格差が比例している。
- ・関連が多い。
- ・金がないと勉強したくてもできない。(大学など) 状況になってきつつある。教育を受けられなくなる。
- ・学区選択や中高一貫制の広がりなど教育にお金をかけられる層の子どもだけがいい教育を受けられるような仕組みが増えてきていると思う。
- ・今後格差が教育を受ける選択に大きな影響を与えると思う。経済力が進路の決定に大きな力を占めつつある。
- ・様々な面で「二極化」傾向を感じる。
- ・学習道具の準備が難しい生徒も中にはいます。やはり経済力は何らかの形で子どもの学力格差に影響を与えていると思います。すでに地域によっても教育の差が出ていると思います。(環境等) 日本全国子どもたち全員が同じように充実した教育を受けられるように名って欲しいです。
- ・私立と公立との指導内容にひらきがある。私立は公立よりも高レベルの学習をおしえてもかまわない点があるので、経済力のある家庭は私立に行き高レベルの学習をすることになる。
- ・格差社会は塾通いとも関係していると思う。そしてさらに学力格差にもつながっていると感じる。
- ・これからは、もっと格差が広がり子供の荒れが心配だ。
- ・教育基本法が改悪されようとしています、これから、ますます格差社会になっていくのではと心配しております。
- ・今後ますます広がっていくと懸念している。
- ・親の経済力が子どもの学力の差になってきている。
- ・社会の中の格差が教育を受ける子どもたちにも、そのまま影響を与えていると思う。
- ・経済格差がそのまま学力につながっていると思います。
- ・経済的に厳しい家の子どもは、家庭学習などでできず、学力など差がある。(幼児教育の在り方ともつながる)
- ・スイミングに入っている子どもが泳げて他の子どもが得意でないのを見ると格差を感じる。本人の努力だけでは、どうにもならないことって、やはり子どもには、かわいそうに思える。
- ・これまで以上に格差が広がり教育を平等に受けられない子どもたちが増えてきている。

- ・格差社会が進行しているように思われる。
- ・厳しい現実がある。都市部も地方も同じように格差社会の中で仕事が少ない現状がある。地方にいけば行くほど、仕事が少ない現実があるのではないのでしょうか？
- ・これからますます開いていくと思います。
- ・小泉首相の構造改革で格差社会が広がり、今後は更に広がっていくと考えられる。その政策に反対し変えていかない限り解決できないと思う。
- ・1の項目はまさにその通りだと思う。
- ・裕福な家庭は教育にお金をかけることができ、子どもが高学歴となつてますます裕福になる。貧しい家庭はこの逆でますます貧しくなりそう。
- ・学用品や修学旅行の携行品などにその実情を見ることがある。(親のブランド物の財布を持ってきて見せている生徒もある)(ブランドへの価値観に違い。子どもへの影響がかなり強い)
- ・色々な場面での二極化を感じます。このままで行くと、どんどんその溝は深くなっていくのでは…と心配します。
- ・ここ数年格差が広がり、「保護者」の負担が大変な場面を多々見るようになった。公教育だけでも平等に教育を受けられるような社会にできたらと思う。
- ・インターネットで収入と学力の関係についての保護者のアンケートがありました。大きく経済状況が関係しているとの親の声でした。
- ・経済力の格差が学力の格差を産むとしたら、それこそ今の政府や中教審が望む方向へ進んでいるとしかいえない。二極化によってエリート・スーパーエリートがどんどん作りだされるだろう。
- ・教育の二極化・地方と中央との格差を実感する。
- ・同じ日本にいて平等な教育を受けられない感がある。義務教育費国庫負担制度がなくなれば、なおもこと地方の教育にはお金がかけられなくなるので、ますます格差社会が広がる恐れがある。同じ日本で国民であるのにそれは変だ。
- ・教育の世界にも親の経済状態による格差が広がっていると思う。
- ・年々格差を感じる事が多くなってきた。
- ・格差は経済だけにとどまらないと思われる。へき地であることによって生まれる教育格差は大きい。
- ・今後さらに大きな課題となると思います。
- ・ゆとり教育・・・週休2日制で生まれた時間が、経済的に「ゆとり」のある家庭との差が格差社会だと思う。
- ・格差が広がり、経済的に苦しい家庭では、子どもの学校生活に目を向ける余裕のない方が増えている気がする。

⑤家庭・子どもの厳しい実態に関して

- ・経済的に余裕のない家庭で、親は自分のことで精一杯なのか制服のシャツもきちんと洗濯されていない生徒もいる。
- ・校区内にいる卒業生の家庭(中学生)を見ても、日々の生活に追われているところがある。学びたいことも我慢しなければならぬ実情があり、本人自身が一番つらいと考える。同じ年代の子ども同士でこのような差が生じることはどうにかしたいことです。

- ・電気が止められているような家庭では、生活をするのもやっとなので学習・教育面まで考える余裕がないように思う。
- ・家庭の経済力を気にして部活動入部をためらう生徒が増えた事は悲しいと感じる。
- ・共働きで朝早くから両親とも出かけ子ども2人朝食も摂らず給食を待ち遠しく思っている実態がある。
- ・裕福な家庭では、十分な教育環境を与えられる。(例えば塾・習い事・通信教育など)しかし両親共働きで、子どもの養育にての回らない家庭などあり食事(朝食)など十分にあたえられていない現状もある。
- ・親が十分な家庭生活を子どもに対してしてやれない為に学校に来なくなる。つまり、子どもの学力はつかない。
- ・親の事情(格差社会の為)で、給食費が払えなくなり、良心的な親はお金を払っていないから卒業式に出られない。(卒業式の日子どもが1人で帰るのを見るのは辛いです。)
- ・親のリストラ・借金・病気のために子どもの生活がおびやかされている。
- ・私立高校に進学できない生徒が増えている。
- ・保護者の経済状況により通塾はもとより家庭でも落ち着いて学習できない家庭もあると思われる。家庭訪問をしてその家の様子がよくわかります。
- ・保護者の養育能力の影響は大きく、例えば保護者が働き尽くめで疲れ切っているために子どもまで目が行き届かない家庭もある。
- ・保護者の養育能力の影響は大きく、例えば保護者が働き尽くめで疲れ切っているために子どもまで目が行き届かない家庭もある。
- ・父親の仕事がない為、子どもを学校に登校させない家庭がある。学校だけでは、対処しきれない。
- ・学力の高い子どもが、行きたくとも大学には行けない実態がある。
- ・関連になるかどうか分からないが、就学援助費の申し込みが大変多く、生活すること自体に困難さを感じている保護者が多い事を感じる。
- ・習い事をしたくても親が、送り迎えが出来なかったり、通わせるお金が不足していたりする児童を見ると気の毒に思う。特にほとんどの子がスイミングに通っているのに通いたくても通えないという子どもの気持ちを聞くと何と答えていいか言葉に詰まることがあった。
- ・衣服のボタンづけ、洗濯など保護者の身なりへの差。
- ・裕福な家庭には教育への関心が高いところが多く、経済的に苦しい家庭は、教育への関心まで気が回らないのか「まあ、どうでも…」というようなどころがある。
- ・不登校傾向の生徒の中にも家庭の問題(経済的)もみられる。食事も与えられず学校にも足が向かない等。
- ・保護者が自分の生活に必死になりすぎて子どもにまで余裕がない家庭を多く見る。
- ・学校徴収金がよく遅れる生徒がおり、肩身の狭い思いをしている様子がある。ノート・漢字帳を買えない生徒もいる。
- ・経済的理由による家庭崩壊、離婚が増え、子どもたちが追い詰められている状況があるように思われる。
- ・「お金がない」という理由で、持ち物が制限されている。(買ってもらえない)
- ・必ずしもではないが、経済的理由で進学や塾通い等諦めたりしている子もいる。

・鹿児島でもいなかの方になると仕事もなくまた農業などで収入が安定していないところも多くとても厳しいと日々感じている。

・父親が会社をリストラされてせっかく希望した大学に入ったのにやめて働かなければならなくなった子を見るといたたまれなくなってきました。

・部費が払えずに部活もできない子。子ども会費が払えずに地域子ども会活動に参加できない子。など親の収入によって活動を制限されている事例が見られる。

・給食費未払いが多い中、終業式・始業式の給食も始まり、さらに支払い困難な家庭もあると昨年聞きました。

・食事をきちんととれていない生徒がおり、生活指導上や学習面で支障をきたす場合が多いと思う。

・生活の格差を本当に感じる。母子家庭で突然解雇され、悩んでいる保護者がいる。収入が不安でバイトを休めず、仕事が探せないという悪循環が続いている。そんな苦しい状況の家庭が増えているように思われる。

・わが子を育てながらも教育にお金がかかると実感します。生活に一生懸命の家庭が学びたい子どもを学ばせることが出来ない現実。何とかして欲しいです。

・家計が苦しいのではないかと感じられる。一向に景気がよくなっているとは思えない。

・高校進学の際に、私立高校へ進学を諦める例が多い。経済力の格差が一番よく影響している

・毎月の生活に追われ学習に集中できない。または、保護者が子どもにかまう余裕がないように思われるので、今後も深刻な課題として残って行くと思う。

・学習意欲はあるのに家庭の経済状況が困難な為、いろいろな機会・経験が出来ない子がいる。国のサポートが更に進めばいいのだが。

・へき地では、高校へ進学するにも長距離をバスで通学しなければならず、バス代もかかり家庭で転居する例が多い。

・両親が不明で子どもだけ残され、食べるものもなくこちらの方で弁当を買ったりしていたが、結局児童福祉施設に入所した。

・ユニホーム代とか遠征費が、かかるので入部を諦める生徒がいる。

・給食費の未払いや修学旅行の積立金など未払いがある。

・失業し働きたくても職がない状況もある。

・お下がりをずっと使っている子、破けたりカビが生えたり痛んだりしている帽子や標準服を着ている子もいる、かと思えばゲーム等マンガ…好きなもの欲しい物を買って与えている現状もある。子育てにもゆとりがなく夏休みも親は働き尽くめで子どもはほったらかしになっている。

・全く経済が浮揚しているという実感はない。校納金の未収の状況は確実に年々増えている。

・私学と公立の差がはげしく私立高校や私立大学への入学を希望しても難しい。

・保護者の経済力の格差の子供への影響の度合いが年々増してきている事を強く感じる。格差社会、働いても働いても収入の増えない現状が子供を通してよく分かる。

・どうしても親の経済力がないと教育に影響する。(本を買ってもらえない。スポーツ少年団に入れない。塾にいけない等)

・過去に、うちは子どもを高校にやる余裕はないので勉強させないでくれ(あまり知恵をつけないでくれ)という方の話しを聞いた。胸が痛かった

・学力向上は盛んに叫ばれていますが、離島・過疎地に生活している児童生徒は日常の教育活動・高校進学など、経済力の為に断念せざるおえない児童・生徒が非常に多い。特に離島は一般家庭の給料は低い上に生活必需品の物価が高すぎる。

・親は家計が苦しくても高校までは出してやりたいと思うその後の就職を考えての事だと思う。特に公立高校に入学出来ない生徒にとっては学費の負担が大きいのでは。

・各家庭間にかなりの差がある。家庭に本がほとんどない家庭、ノート代も親にいけない子など。また、住まいもかなりの差があり離島の厳しさをつくづく感じる。

⑥あまり問題ない

⑦その他

・生活にゆとりがないと教育の方にまでは手が回らず大変。安定した生活があってこそ子どもたちに教育をできるのではないのでしょうか。

・少子化問題が話題になるが、兄弟が多い家庭は保護者負担が大変な気がする。徴収金については各学年の連帯が必要だと思うが、難しい…。

・打倒 自民党！！

・鹿児島は、高校で優秀な公立校がありとてもよいことだと思う。(他県は学費がないと教育を受けにくいところもあるので)

・大人社会に格差というより、最低限の生活が保障されない実態があるのも問題だが、それが子供たちの教育にまで影響を与えているのはどうしても改善していかなければならない。

・学校側がどこまで家庭に介入していいものか、これからの社会の中での課題になっていくような気がする。

・親が生き生きと過ごせることが子どもたちにも良い環境だと思う。「学歴だけではない」という意識がもっと強くなって欲しい。塾に行かせたり、気が焦ったり、余裕がなくなっている。

・いずれにせよ教育にはお金がかかりすぎるのは、いかがなものかと思う。

・これから先、また一層格差が広がり将来が不安です。しかし補助や援助を受けている家庭が貯金することなく、若い人の感覚が知りませんが、ポンポンと使っている現状を見ると何も言えません。正直バブル崩壊後に思春期を過ごした自分にとってあの時の親は、家計は厳しいながらも儉約を行い、生活をしていたように感じます。格差社会の広がりがあり、低所得者が増えるにしてもそれに見合った使い方をしていけばよいのですが、儉約もせず、子どもに好きに買い与えたり料理をすることなく外食で済ませたり現状を見ていると余計悲しく感じます。なんかその日が楽しければ良いみたいな感じが…。

・小・中学校では、さほど感じないが高校・大学となると経済力がとても重要だと思う。

・未納者への対応を担当に…というところが大きいと担任としても辛いものがある。

・実情がそうだからと安易に制度などは変えるべきでない。

・各家庭の様子が様々で(プライバシーにも関わるので)学校現場が家庭と関わりにくくなっている。

・格差社会のため子どもへの影響がないように何とかできるようにしていきたいものです。

・子ども達に必要な力をつけるために副教材を使いたい金額はたいした事なくても考えてしまう。コピーは著作権で許されない。教師は給料が減り、教育内容は削減されるが、子どもたちに力をつけてあ

げられない。残念！！

- ・家庭教育力が不足している家庭もある。(保護者が障害のある方など)
- ・リストラ・雇用条件の悪化等のため保護者が子どもの教育にまで気を配る余裕のない現状をしばしば聞く。また、保護者が上のことにより精神的に病み子どもの精神面にまで影響を与えていると思う。そのため子どもも勉強どころではない実状が出てくるのではないだろうか。
- ・現在の社会状況によらず過去から経済力の格差による問題はあります。
- ・格差社会の影響を極力子どもに反映しないようにしたい。
- ・格差を就学補助費等で改善できない状況になっている。根本的な解決策が必要であるのだが！
- ・塾の競争が激しさを増す中「子どものため」ということで、よかれと思ってやっていること(やらせていること)が、子どもたちの溝を染め本当の意味での人間関係を築く時間を奪っていると感じる。
- ・どの子どももきつい思いをせず、学校生活を遅らせてあげたい。
- ・日本は、まだ恵まれたほうだがこれ以上格差が出れば大変である。
- ・保護者が働かなければ経済上困るため一生懸命働かれています。しかし、そのため、時間的に余裕がなく、子供たちに対して手をかけてもらえない状況の家庭もある。それは学力にも著しく反映しているように感じます。また、心の面でも悪影響があるように思います。
- ・私立高校に行かせたいが(希望する科からみて)うちではやれないと言う話もあります。お金のある家庭は、思うような進路を選べるがそうでないところは、どうしていくと良いのか等考えることは多い。
- ・経済的な理由で自分の行きたい高校を選べない。(公立・私立に関わらず、交通費の負担も大きいです。)
- ・弱い立場の子どもに関係する予算を次々に削減して学校教育の環境は、ますます悪くなっている。学校への期待、注文はますます大きくなる中で、我々大人社会のつけは子どもへ。
- ・たまに心のゆとりも大切だと思う。夫婦共働きでもお金の執着しているときつきつで、子どもの生活にまで目が届かない。
- ・担任から「お子さんを塾に通わせなさい」と言われた。…などを聞くと悲しくなる。「落ちこぼれ、落ちこぼしを出さない、作らない」と頑張ったのは過去の話しか!?!「教育の機会均等」も死後になっていくのか?「格差社会はあっても当然だ」などと平然と喋る小泉政権!後は野となれ、山となれ…と心配です。
- ・各家庭の教育費が、子どもは少なくなってきたのに年々かかりすぎているように思う。保護者の収入の差で放課後の子どもの過ごし方に影響が出ている。スポーツ少年団・塾・習い事など・学童保育にしてもお金がかかる実態である。
- ・親の所得の格差が子どもへの教育費の負担に差を生み格差の再拡張につながる。また、親が生活費稼ぐ為に、深夜まで労働することになると子どもとのふれあいが減少し子どもの健全な育成に支障が出るのでは。
- ・塾通いの現状など。
- ・小学校では、経済力の格差が直接学力格差につながっているとは思えないが、高校・大学進学を考えると必ず格差が生じるはず、学力というより進学・就職に影響があると思う。
- ・社会の制度と教育問題が直結していることを考えると今の政治や社会のあり方に大きな不安を感じます。自分の身近にある現状の改善の何ができるのかを真剣に考えていく大切さを考えさせられました。

- ・格差社会は教育をダメにする。
- ・格差社会の格差の意味を充分理解していないのが実情です。
- ・経済的に苦しい家庭が子どもに手をかけず、放任の生徒がいる。
- ・自由な社会で誰にでもチャンスはあると言われるが、人生のスタートラインに格差ができてしまっていると言われます。これが問題だと思う。
- ・小学校ではまだそこまで感じないが、中学校など塾に行かせようとする経済的に余裕がなければ行かせられない。また、保護者の労働条件が厳しいため、子どもへ目を向けられず、さびしい思いをしている子供たちが増えてきている。
- ・職場の厳しさ（不況・パート等）からか家庭で子どもとじっくり向き合う姿勢が少なくなっているように思える。学校任せの気持ちが強いのでは…。ノ一部活デー（日曜日）完全実施にしたら「子どもが何をするか不安だ」ということで不満を口にする保護者が多い。
- ・全ての生徒に一定の学力を保障するべきであるが、限界と感じたり見過ごしているところが自分自身あるのを感じる。
- ・高収入な家庭など子どもの教育にお金をかけられると思う。そうでない家庭は、習い事難しいと思う。
- ・新自由主義の台頭による結果であり、教育の機会均等等崩れている危機的状況がある。
- ・塾や習い事をかけ持ちで習って、通っている子がいる。
- ・格差社会をなくしてもらいたい。その為に努力したい。
- ・家庭状況によって教育を受ける権利がなくなるのはおかしい。学力にも二極化がある。
- ・金と学力、点数…相関関係にある。二極化している。なんとかならないものか？
- ・学力の低い子の家庭がたまたま経済的に苦しい場合もあるのでは。
- ・経済力にある家庭では、学校以外での教材・塾などに力を入れている状況にある。その反面ない（経済力）家庭だからといって学力が低いという事がないよう学校での指導力に問われる
- ・小泉政権がまもなく終わろうとしているが、続く安倍政権も小泉政権を引き継ぐものと思われ、この格差社会が一層広がるものと思われる。近い将来中高年の自殺者・若年層の犯罪の増加は避けられないだろう。私達は少なくとも「被害者にはならない」という強い意識を持って生きていかなければならない。
- ・将来がどうなるか、とても不安です。先が見えません。
- ・私の職場がある地域は、所得が県内でも低いので、学校職員の自動車を見て「よか車乗っちゃよんなー」とか「学校の先生はよかなー」と皮肉を言ったり土・日の地域行事へ参加しないと「お金をいっぱいもらっちゃたっではたらかんなあ！」と言ったりして公務員へのバッシングが強いと感じる。そういったことを（職員の悪口も含め）子どもの前で言うこともあり、学校経営がうまくいかなかったこともある。保護者同士でもねたみ合いがあり、それが子どもの友達関係に出ることもある。
- ・現在の「学力向上」教員をそして子どもを追い込み追い込んだ結果、ふるいをかける教育を生み出しつつあるのではないか。現場は、ぎゅうぎゅうに追い込まれています
- ・学校の教材などでもそうだが、体験的な活動という面でも大きな差があると思う。せめて中学生までは、可能な限り平等にチャンスを与えてあげたい。
- ・結局勝ち組の子は、また勝ち組。負け組と呼ばれる親の子は負け組となって差別社会をつくってしまっている。

・共稼ぎは時間はないが金はある。しかし子どもが多くて一人の稼ぎでは将来が不安。結局独身や少子化が進んでいくことになる。

・学校では習熟度別と言いながら能力で差別し、社会では能力主義で「勝ち組・負け組」とにわかれ一部のエリート（勝ち組）に支配され、子どもたちの大多数は苦しい生活になっている。

・大人の労働条件（雇用の問題など）から見直したほうがいいかなと思う。

・今後、英語課が導入されると尚、格差が進むのでは？

・「所得格差」「地域格差」が「教育格差」を生み出しつつある。三十年くらい前も東大生の平均所得が高かったが、別に東大にいかなくても生活を営む条件があった。今後は、生活基盤そのものが一定程度の教育を受けないと保護されなくなってくると思う。基礎学力の定着化の圧力と共に、公教育の軽視化が侵攻し、学校現場は益々格差社会を増長する機関においやられるかもしれない。「学び」に対する教師の真剣な実践力が問われているのでは。（例：福岡県 田川市などの取り組み）

・経済的にきつい家庭は、両親とも働かざるを得ない。その結果として、親の子どもに接する時間や機会を磨かれて子どもの不安定要因がます。不安定な子は、学習にも集中できずに、学力は低下していく。その子は、授業が面白くないので隣の子にチョッカイを出す。すると学級自体も落ち着かず流れていく。という悪循環に陥ってしまう。

・小規模校であり個別指導が行き届くので、学力は何とかなるものの習い事にはいけないし家庭も家庭学習への協力の意識は低い。

・格差社会によって、子どもたちの心が荒む。たとえば親が必至に働いていて家族の会話も生活を共にする時間さえもなくなると、子どもたちは、学習をするという気持ちも日々の生活を規則正しく送るという気持ちさえもなくなる。格差社会を一刻も早くなくして欲しい。

・要保護・準要保護等、保護者にもっと紹介していく必要あり。

・アメリカの例としてマイノリティー等の経済的に苦しい家庭の子が「公立」WASPなど経済的に裕福な子が「私立」という。と同時にアメリカの公立学校の「荒れ」がものすごく「なりたくない職業」のトップに「公立学校の先生」がある。日本もこのまま格差社会が広がれば、いずれ「公立教育」が崩壊するだろう。

・開放出版社「教育不平等」著者 戸川正明を読むとこの問題についてはっきりと分かります。

・格差社会が進行する中で学級の役割も変化してきていると思う。その変化が良い方向かという疑問である。朝食を準備し食べさせる学校の形が、果たして良いものだろうか。

・市町村合併に伴い、保護者負担が多くなっている。自分の担当している給食費については、支払うことができる能力（経済力）があるのに、支払わない現状があり、まともに支払っている児童・生徒へ負担が来ている状態である。

・メディアの発達で情報が地方にいてもたくさん入ってきますが、教育を受けるとなると中央中心的で不公平を感じることが多い。

・「勝ち組」「負け組」等の言葉がよく聞かれるが、それがいじめ等に発展しないか心配である。

・家庭環境によって、子どもの教育にも大きく影響を及ぼすと感じる。また、個人情報などの問題の関係から教師（学校）側が家庭の事を把握しにくい状況である。

・子どもたちが金銭のことで心配せず、落ち着いて学習できる環境づくりをしていければと思う。

・いろいろな補助がどんどん削られていく事に不安を感じます。富者が優遇されそれ以外の人たちに有

無をいわず負担を負わせている今の政治は非常におかしいと思うし、そのしわ寄せが子どもたちに来そうな気がします。

- ・問1の問題が、本質だと思います。
- ・経済力の格差が、直接学力格差につながっているとは思わないが、やはり問題行動等の要因であるような気がする。
- ・努力して働いたもの成功したものは、それはそれで認める。病気等で、働けない人には、温かい手立てが必要。教育は、生きて働いていける基礎的な力は、必ず身につけさせたい。
- ・通塾などで学力格差が生じる。入りにくい学校において顕著である。
- ・親が働くことに一生懸命で、子どもの世話・面倒まで見切れていない。(特に父子家庭)親が方親の場合、PTAにも来れない。
- ・保護者の経済力の格差が子どもの学力格差に影響を及ぼすことはありえると思うが、子どもの意志・意欲・努力で改善できることであると思います。保護者に経済力がなくとも、子ども自身がしっかりしていれば問題ないとは感じます。
- ・給食費等の対応が多いのが実情。どういった対応が良いのか。
- ・全ての子どもに同じような教育を受けさせたいと思う。
- ・ふだんの学校の授業関係だけでないのですが、部活動等でも家庭の負担が増えている。部活動は強制でないで入る、入らないは自由だがあまりにも負担が大きい。部費などを払えないから好きな部活が続けられないとか、入れないということもあるのではないかと?保護者の経済力の差によって学力だけでない学校生活のいろいろなところに影響がでてきていると思います。
- ・最低限の保障のラインは守ってもらい、子どもがお金のことを気にせずに進学などを考えられたらいいと思う。せめて高校まででも。
- ・校納金・給食費など、払いたくても払えない家庭、払えるのに払わない家庭、あると思う。未納金額がふくれあがり、大変であることはよくわかるし、何か対策が必要とは思いますが、一律同じ措置をとるのは間違っている(というか配慮がない)と思う。
- ・子どもたちの心のよりどころ(家庭)を安定させ、豊かな心が育つように願っている。
- ・小学校では経済力の格差が子どもの学力の格差に大きく影響を及ぼすことはないが、中学・高校と進むにつれて大きく影響を及ぼしていきそうだと感じている。
- ・教育の機会均等の面からも問題である。
- ・鉛筆・消しゴムだけでも、たくさんある子・全くない子と差があるのが実情だ。
- ・所得の高い家庭は習い事もたくさんできる。それが影響しているかどうかははっきりとはいえないが少しは学力にも影響している面もあるのではないかと。
- ・母子家庭で仕事をリストラにあい、臨時で働きながら生活の不安を抱えている保護者の話を聞くと胸が痛む。教材費等の負担軽減のこと等職員で話し合う機会もない。学力向上の方にばかり目が行く傾向があるので、もう少し声に出し、職員の意識を変えることも必要だと思う。
- ・経済格差は、こどもたちの教育格差に確実に結びついてくる問題だと思う。それは将来また大きな経済格差を生み出していき、できる子できない子の格差が生きられる人間を生きて苦手も生きられない人間を生じさせていくことになりかねないと思う。今の日本で家庭の事情という理由で下を向いているしかなない子どもたちが存在しているという現実、大きな問題だと思う。かわいそうに思う。他人事で

はありませんよね。

- ・教育で解決できるものはできる限り解決したいというのが理想だと思います。
- ・先日NHKの「ワーキング・プア」という番組を見ました。働いても子どもたちを高校・大学に入れることができない50代の男性の話。その後新聞で英に子どもを留学させている実業家のことが書いてありました。子どもへの送金が120万だったような・教育は全ての子どもたちに均等に与えられるはずです。
- ・削減できるものは当然のこととして削減すべきであり、経済力と教育環境が創刊があるということはあってはならないと思う。
- ・ワーキングプアと呼ばれる事例が拡大している事を知り、何か対策はないものかと考えています。子どもの時からホームレスのような状態で生活していて、働きたくても働く場がないというのは社会全体の責任だと思うのです。せめて子どもには職業を選ぶに至る学力をつけたい。つけなければならないと思います。
- ・いくら能力があっても衣食住が満たされていないと現代社会で一定の豊かさを維持するのは難しいと思う。
- ・子どもたちが学費の心配なく行きたいところに行ける制度があれば…先を見通して「どうせ…」と思えば自然に意欲はなくなり努力もしなくなる。自分で自分の経済力に見切りをつけてしまう。
- ・親の経済力があると行きたい学校、やりたい勉強が出来る。やっぱり学力があっても、経済力がないと、その道に進む事は困難。
- ・教育予算が削減される中での学力向上は難しい。
- ・社会全体の労働に対する考え方と教育に対する考え方の両方から変えていく必要があると思う。
- ・経済力不足の為か、地域的なことかは分からないが、人間関係がピリピリしている。子どもとうまくかかわれない親の姿が見えてくる。
- ・義務教育は無償のはずが副教材を始め受益者負担の名の下に保護者の経済的負担が非常に多く多額であるように思う。そのため「保護者の経済力」＝「子どもの学力」の構図が出来上がってきているように思う。
- ・先日テレビで「朝食と学力」の相関について報道されていました。その中で、朝食を給食みたいにとらせている実態の紹介があった。親の経済格差が各家庭の生活状況の格差を生み出し、学力にまで影響していると思います。変わる意味での「多様化」が尊重され格差が広がっている現代では学力格差が生じる事は当然である。保護者への経済負担を考えずに副教材を2つも3つも注文する教師がふえている。生活に余裕がない事で子どもに手をかける精神的余裕がないという悪循環を産んでいる家庭も実際にある。
- ・中学・高校・大学へと進むにつれて家庭の経済力によって子どもの進学に大きな影響を及ぼしていると思う。
- ・大変恐ろしい事です。われわれ自身もわれわれの子も勝ち組の底辺から負け組に移行させられようとしています。社会全体の底上げが急務です。
- ・家庭的に経済困難のところの子は、親が生活に一杯で子どもの教育まで行き届かないのではないかと思います。また、比較的ゆとりのある家庭の子どもは習い事をしたり、忘れ物も少なく、宿題もきちんとしてくる子が多いです。

- ・意欲も能力もある子ども、意欲も能力も乏しい子どもと千差万別だろうがチャンスは均等にあってほしい。
- ・余裕のある家庭の子どもは通塾、介在的に厳しい家庭は行かない、そのようになっているように感じます。
- ・以前（10年前ぐらい）の子どもに比べ、ずいぶん子どもにやる気が見られず、親にも余裕がなく、親自身が見かけの学力向上や担任のしめつけを要望するなど厳しい状況。
- ・金銭で差が出るようなことがあってはならないと思うし、保護者の方々も子どもたちの為に尽力心意気を常に持って欲しいと思う。
- ・高校に行きたいのに、私立高校は経済的に無理で進路がせばめられている。その一方で有名私立を望む傾向も強くなっている。
- ・お金のある所だけが、良い教育を受けられるという現状は何としても失くしていかなければならない。
- ・両親の離婚・再婚・転校などで家庭が安定せず、心が不安定な子どもが多い。経済の違いが子どもたちの教育にも影響を及ぼしていると思う。平等に行われるべき教育なのに…。
- ・学力という視点のみからこの問題を考えると、公教育にたずさわる私たちにも身近な大きな問題ですが、実際には、もっと子どもの人生がどうあるかという大きな視点から考えたときこの問題は、今考える以上の様々な視点から対策をたてていくことが大切かと思います。例えば・地域力・家族愛・郷土愛を育てたり生きるという意義を考えたり…
- ・一番に犠牲になるのが“子ども”というのは本当に悲しいことです。家庭の中が不安定になり、子どもたちも生活も学習もままならない…という現状。本当にどうにかしてあげたいと心から思います。
- ・親の経済力に関係なく、子どもたちが自由に学べる制度が整えられるべきだと思います。
- ・教育（学校）もスローにすべき。そうすれば教材費等も押さえられるのでは。
- ・リストラ・雇用条件の悪化による教育の影響は大きいと思う。
- ・本校ではさほど感じないが、県下・全国に目を向けるとリストラによって、高校中退を余儀なく選択している現実がある。
- ・どうしても貧しいところの子は、やる気のなさが見えてくる。ハングリー精神という感じがしない。
- ・自分自身の意識向上を図らなければならないと思う。つつい我が家を基準にして考えてしまい援助費とかに頼らなければならない経済弱者の立場を忘れがち。
- ・習い事や塾に通えない子がいます。学力面では劣ってしまう点がないとはいえない。生活面では、恵まれている子程物持ちがよくないと思う。格差があっても子どもは同じ。平等に接しています。
- ・格差社会を当然と考える時代にならない事を希望したい。
- ・就学援助申請の生活実態は、学用品どころではないというのが正直なところである。数年前に「結果の平等は悪平等」などと言う「識者」がいたが、社会が失おうとしているのは機会の平等であると思う。
- ・学ぶ意欲のある子どもには、経済的支援がほしい。
- ・親が生活に忙しい所はかまってもらえない。親に経済的に余裕があると、塾に行ったり親がゆっくり勉強をみてやったりしていて、理解力に差がでてきている。
- ・大人の世界の差が子どもに影響を及ぼすのは当然だと思います。
- ・みんながより良い環境で学習を受けることができたらと思う。
- ・格差がないとはいえないが、それを言いわけにするような育ち方はさせたくない。しかし、できるだ

け、どこの家庭にもムリのないような配慮は必要。

- ・格差社会が進行する中で教育は環境（経済力・人的）なものが多く影響していると思う。経済的には豊かでも両親が忙しく子どもと向き合えない家庭も多く、小学校からの学習の習慣がついていないため、もてる能力を十分発揮しているとはいえない。

- ・今の所は感じませんが、これから格差がでてくると思います。

無責任な保護者のもとにいる子どもは、できるだけ何らかのサポートが必要、施設までとはいかなくても地域あるいは、教育委員会などで対処すべし。

- ・子供同士でもお金持であるかないか・等感じている部分があるように思う。そういう中で子どもたちが生活しているのは、どうかと思う。

- ・格差社会はあってはならないと思うが、学校でも家庭でも本当に必要な教材であるのか見直しは必要だと思う。

- ・副教材費等を極力削減しているが、そうすると例えば図工の材料等家庭から持ってくることになる。材料が揃う家と揃わない家がでてくることになり結局、格差が生じてしまうことになる。そこを産めるためには、どうしたらよいか？

- ・近年格差社会が両極化していると言われるが、学校の現状からもそれが感じられる。教育の機会均等がきちんとされない（親の意識の面も）あるだろうが）と、これからの日本という国が心配だ。

- ・働く場所が狭くなっているために保護者の経済が苦しくなっている実態が分かる。

- ・特に高卒以後の進路選択で経済力が影響する。今後フリーター世代が親となっていくとき進学させられるのだろうか。

- ・悪意の延滞でなく経済的に苦しい事情も分かるので相互の信頼関係をよりどころにしのいでいる。踏み倒し・というのは、これまでにない。

- ・現在での学校ではないが、補助金をもらう為に籍を抜いたり（一緒に住んでいるが）生活はお金に余裕がないように見えないところもある。補助すべきところにお金が下りるようにきちんと調べる事も大切なように思う。

- ・前任校で給食費徴収係をしていました。なかなか払ってもらえなくて自分で立て替えたりしていました。準要保護の申請をして3年がかりで払ってもらえた事もありました。準要保護児童も増えていき交代でもらえるようにされたときもあります。中にはお金の使い方を少し考えてくださるといいのになあという保護者も見られました。働きたくても仕事のない人、辞めざるを得なかった人、災害などによる生活苦など。大人の経済的心配が体や心にそして子どもたちまで、せめて子どもの教育だけは平等に受けさせたいです。

- ・公務員は恵まれているなど思うことが多々あります。

- ・生活して行くのがやっとなで勉強する環境をつくってやれない。親がいて親の経済力・生活力が子どもの学力能力に大きく影響している。

- ・格差がいじめにつながる例が多い。

- ・自分たちが子どもたちをしっかりと見て、子供たちの為に取組んで（働いて）いけるのか心配な面が多々あります。評価の問題もその一つ、職員が協力して他の学級の事も心配しながら今後と取組んでいけるのだろうか。

- ・業者テスト廃止や塾の奨励その他離島僻地にとっては打撃的な政策が多い。

・全ての子供たちに教育を受ける権利がある訳ですが大人の作り上げた格差により平等さを欠くのはいかなものかと思います。

・ネグレストにしても根元は格差社会のもたらしたものであろう。奨学金などはよくなっているので進学についての情報を広げたらいいと思う。

・徴収金の未払い状況、援助費の申請家庭の増加などをみても確かにここ数年経済状況の苦しい家庭が増えていて感じます。また公的予算も年々減ってきており義務教育無償とは名ばかりの状況が・・・。

・学校・地域によって違うと思うが、子どもが楽しく来れる学校にしたい。

・お金がなければ進学が保障されない時代になりつつあることが心配である。

・経済的にゆとりがあれば、精神的にゆとりが出てくると思う。

・よく分かりませんが、一見経済の格差によって子どもの学力に影響が出てきている様に感じますが小学校の段階では親の学習に対する意識によって学力が変わってくると感じています。しかし中・高の進学がかかわってくると状況や考え方は変わってくると思います。

・本当にこの2つは影響のあることだと考えています。ただ、どのように解決していけば良いのか難しい問題だと思います。

・確かに格差社会が急速に進んだようにみられる現状があり、政治の責任も考えられるが、それを理由に甘えていると思われる保護者（大人）もいる。そういう意味では政治の責任だけではなく教育に携わる我々も考えなければいけないことがあるのではないだろうか？

・専門学校へ行くだけの、経済力のない家庭が増えてきているように感じる。

・格差社会も問題だが、保護者の教育に対する意識の欠如（一部）も問題である。

・学校内では格差はあまり感じない。しかし学校外で習い事をしたり塾に通ったりしている子どもは経済的に余裕のある家庭である要なので、学力格差につながると思う。

・格差社会が進むにつれ偏見も生まれ、教育を受ける権利などが制約される。格差社会の中で子ども1人1人の持ち物が極端に違うようになりその結果話題から取り残されてしまっている。

・公立学校の質の向上。

・格差社会が大人・保護者の意欲も失わせ子どもへの影響となって現れていると思う。

・受験（特に大学）の制度に改善が必要。表面的な知識の重視が大きな間違い。

・お金持ちの子どもは教育のチャンスや方法が多い。能力のある子どもに道がひらかれないならば、不平等が続くと思う。

・学力差も関連する問題である。